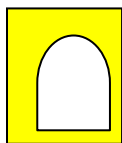


日吉台地下壕保存の会会報



第122号

日吉台地下壕保存の会

第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム 千葉県館山大会開催される

「戦後70年」にあたる本年、9月5日～6日に千葉県館山市の千葉県南総文化ホール、館山市コミュニティーセンターにおいて第19回戦争遺跡保存全国シンポジウムが開催され、参加者数は350名におよびました。7日はフィールドワーク2コースの見学会が行われ、共に盛会裡に終了しました。5日は、プレイベントとして、午前中に館山海軍航空隊赤山地下壕跡の見学会と、『赤い鯨と白い蛇』の映画会が行われ、午後から全体会が開催されました。開会セレモニーとして、実行委員長松苗禮子氏より『富田先生の青い目の人形』の語りで始まり、記念講演では韓国光州市美術館名誉館長の河正雄氏より、『平和と文化と戦後70年の祈り：韓国と日本、二つの祖国を生きる』ということで、喜寿を迎えられるご自身の人生をお話頂きました。休憩をはさんで、戦跡全国ネット運営委員会共同代表の十菱駿武氏より、基調報告『戦後70年を迎えた戦跡保存』として、文化財保存行政の経緯と現状、課題について報告頂き、続いてパネルディスカッションが行われました。池田英真氏（館山市



パネルディスカッション（全体会）

目次	
巻頭言 第19回戦争遺跡保存全国シンポ開催される	1p
報告 大会アピール	2p
全体会報告(9月5日/土)	
開会セレモニー「富田先生の青い目の人形」	3p
記念講演「平和の文化」と戦後70年の祈り	3p
基調報告「戦後70年を迎えた戦跡保存」	4p
分科会報告(9月6日/日)	
保存活動における行政との関わりについて	5p
第1分科会「保存運動の現状と課題」報告	6-8p
第2分科会「調査の方法と整備技術」報告	8-9p
第3分科会「平和博物館と次世代への継承」報告	9-10p
報告 報道関係者向け特別公開について	10-11p
戦争体験者の聞き取り 女性理事生のお話	11-15p
報告 元帝国海軍神津少佐の遺品	16p
お知らせ 2015日吉フェスタ	16p
報告 港北図書館でパネル展&講演会を開催	17p
お知らせ 会則の一部改正について	17p
東南アジア考古学会研究発表会	18p
戦争遺跡をめぐるバスツアー	18p
報告 乗り切りました 酷暑のガイド	19p
活動の記録(2015年7月～9月)	19-20p

商工観光課主任学芸員)より、里見氏稲村城跡、青木繁「海の幸」誕生の家・小谷氏住宅など、館山市の文化遺産を活かした官民協働まちづくりについて、吉浜忍氏（南風原町文化財審議委員）より、公開に向けてのガイド養成講座の開設や飯あげ体験など新たな活用を取り入れた保存と活用の取り組みの経緯、松村信博氏（高知県香南市文化財センター）より香南市戦争遺跡と高知平野戦争遺跡保存・活用の取り組みについて、そして愛沢伸雄氏（NPO安房文化遺産フォーラム代表）より、「平和の文化」の理念と「館山まるごと博物館」のまちづくりについてお話頂きました。

18時から、全体会会場の大会議室にて全国交流会が行われ、コーラス等歓迎行事、各地からの感想、近況報告など行い、親睦を図ることが出来ました。6日は、第一分科会（保存運動の現状と課題）、第二（調査の方法と整備技術）、第三（平和博物館と次世代への継承）など合計20本の報告があり、日吉台地下壕保存の会からは、第一分科会にて『保存活動における行政との関わりについて』の報告がありました。また、今回、特別分科会（米占領軍の館山上陸と直接軍政／証言者のつどい）として8本の報告がありました。各分科会の詳細は別紙報告内容参照下さい。15時からは閉会集会が行われ、各分科会の報告、大会アピールの後に無事全日程を終え、来年度は長野県松代で開催されることが報告され、閉会となりました。翌7日は、フィールドワークとして、館山海軍航空隊跡、「震洋」「回天」基地跡、青木繁『海の幸』誕生の家・小谷家住宅などを含む2コースが開催されました。

報告

大会アピール「戦争遺跡と文化財を活かしたまちづくりをすすめましょう」

2015年9月5・6・7日、千葉県南総文化ホール、ならびに館山市コミュニティーセンターを会場に、350名の参加の下で、第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム千葉県館山大会が開かれました。大会の開催にあたり、共催していただいたNPO法人安房文化遺産フォーラム、またご後援いただいた館山市、館山市教育委員会、館山市観光協会、千葉県歴史教育者協議会に対し、心より感謝申しあげます。

今大会が開催された館山市は、その地理的条件から、明治以降東京湾防衛の要衝とされ、海軍航空隊、海軍砲術学校、東京湾要塞に関連する多くの軍事施設が建設されました。ことにアジア太平洋戦争末期には本土決戦を準備した特攻基地や陣地が構築された結果、市内には47件の戦争遺跡の存在が確認され、中でも赤山地下壕は市の指定文化財となっています。さらに日本の降伏文書調印の翌日には、米占領軍の上陸地となり4日間の直接軍政が敷かれた地でもあります。こうした戦争遺跡に加え、里見氏や青木繁など、地域の豊かな歴史と文化遺産をまちづくりに活かす取り組みが「館山まるごと博物館」として構想され、行政と市民の協働によって大きな成果をあげています。「戦争遺跡を活かしたまちづくり」の先駆的な取り組みとして注目するとともに、その一層の充実とご成功を願うものです。

史跡・有形文化財として指定・登録された戦争遺跡は230件となり、マスコミも戦争遺跡に注目し大きく取り上げています。敗戦から70年が経過し、戦争体験者が急速に減っていきなかく、「語り部」として戦争遺跡を保存・活用することは、いまや国民共通の課題となっています。一方で、武蔵野市中島飛行機武蔵製作所変電室のように、構築物の劣化や開発により解体・消滅する戦争遺跡が相次いでおり、早急な対策が求められます。また文化庁の『近代遺跡調査報告書⑨（政治・軍事）』の発刊は2004年の刊行予定から11年が経過した今も刊行のめどがたたないまま推移しています。一日も早い刊行を要望すると同時に、執筆者に対し記述の削除や変更を求めることなく客観的、科学的な内容を保証することを強く求めます。都道府県や各地方自治体においては、刊行を待つことなく独自に戦争遺跡の調査、保存、史跡・文化財指定を進めることを求めます。

戦後70年の今年、集団的自衛権の行使を可能にするための安保法制が国会で審議され、国民的な議論となっています。沖縄における普天間基地の辺野古移転の問題も緊迫した情勢を迎えています。安保法制を認めるのか否か、今、日本は戦後社会の分水嶺に立たされていると言えます。

私たちは、戦争を肯定することなく、平和のために戦争遺跡を保存・活用することが、戦争遺跡保存運動の原点であることを再確認するものです。「戦争のできる国づくり」を決して許さず、戦争に反対し平和を守り続けようと願うすべての人々と手をつなぎ、私たちの運動を進めることを確認し、大会アピールとします。

全大会報告（9月5日／土）

(文責：運営委員 小山信雄)

【開会セレモニー】語り「富田先生の青い目の人形」 大会実行委員長 松苗禮子

「青い目をしたお人形は アメリカ生まれのセルロイド♪・・・」こんな懐かしい童謡から大会は始まりましたが、「青い目の人形」にはあまり知られていないエピソードがありました。今から88年前の昭和2年、アメリカから12,000体の人形が、パスポート、乗船切符、そして英文の手紙を携えて、日本に贈られてきました。親善人形として、青い目、金髪、栗色等の髪をした人形たちは日本全国の子どもや大人達に歓迎されました。ところが、僅か14年後の昭和16年にはアメリカと戦争することになり、「敵国の人形は焼き捨てろ」の号令の下、大半は処分されましたが、300余体の人形が生き残っていたことが戦後明らかになりました。館山小学校に贈られた「人形メリー」が憲兵隊たちの監視の目を掻い潜って、校長先生から託された富田文枝先生（当時19歳）が隠し通し、現在娘さんが大切に保管されているエピソードを中心にお話頂きました。人形が送られて来た当時、子どもたちはアメリカの人形が大好きだった。日本にとって、アメリカは憧れの国だったはずです。それが、あのような悲惨な結果迄招いてしまった戦いを何故してしまったのか？無念とも残念とも、とても言葉では表せないことです。「88年間、日本にいたアメリカの人形たちよ、青い目で見てきた日本を教えて！」という言葉は、胸に響きます。日本とアメリカはそんなに憎しみ合っていたのでしょうか！？



大会実行委員長 松苗禮子氏

【記念講演】「平和と文化」と戦後70年の祈り**：韓国と日本、二つの祖国を生きる 韓国光州市美術館名誉館長 河正雄**

河正雄さんは、今年で喜寿（77歳）を迎えられます。1939年、大阪で在日韓国人二世として生まれ、まもなく秋田県に転居。高校時代、画家を目ざすも断念せざるを得ず、事業家として成功を収める中で、同胞の美術作品に出合っ心揺さぶられ、絵画収集を始め、やがて日韓両国の美術館に約1万点の絵画を寄贈し、2012年にはご自身の名前を冠した「霊巖郡河正雄美術館」が御両親の故郷に開かれることになったことなどのお話がありました。田沢湖畔の姫観音像にまつわる歴史や、1914年に農林技師として日本の統治下にあった朝鮮半島に渡り、朝鮮に貢献し人々に愛された浅川功の話も大変興味深かったのですが、一番印象に残ったことは、「恨（ハン）」という言葉でした。日本語の「恨み」ではなく、「骨や髄、歯茎まで染み込んでいる感情、歴史的な不運や災難、人間の意思では思うようにならない運命に振り回され、力が及ばない感情」とのこと。世界には200を超える国や、数えきれないほどの



韓国光州市美術館名誉館長 河正雄氏

多くの民族があり、夫々の思いや感情が存在していることと思います。違いを理解することや認め合うことは決して容易なことではありませんが、少しでも理解しようと努力を続けることが大切ということを、「恨」という言葉を聞いて感じました。また、「日本と韓国の間には歴史認識の溝があり、それらを乗り越えようと努力している人びとがいます。歴史を知らない、無知ということは、未来への展望が拓けないのです」は強烈なメッセージでした。

【基調報告】戦後70年を迎えた戦跡保存

戦跡全国ネット運営委員会共同代表 十菱駿武

- ・戦争遺跡は全国で概算5万か所あるが、戦後70年を迎え、赤レンガ・コンクリート建造物は耐用年数を越し、また都市開発により戦争遺跡は解体消滅の危機にある。
- ・文化庁の近代遺跡所在・詳細調査(1996～2003年度)で、9分野のうち「政治・軍事に関する遺跡」は544件の戦争遺跡、詳細調査では、51件が選ばれ、2004年に刊行予定であったが、2014年になっても未だ発行されず。
- ・大幅遅延は歴史認識・政治的理由による。歴史教科書検定の沖縄戦記述変更と同じ圧力や、文科省の国家主義的理由による。：①報告書編集段階で「政治分野遺跡」が加わった。②文化庁調査官による「沖縄戦記述に集団自決、従軍慰安婦の記述があるので記述削除」要求に対し、研究者が「史実を変える事はできない」と削除に同意しなかった。
- ・2013.1 文化庁通知文書の内容：「近代遺跡の史跡指定・記念物登録について、調査研究が進み条件が整ったものは、近代遺跡報告書の刊行は前提とせず、指定・登録を進めること」
- ・埋蔵文化財保護行政
 - ◇周知の遺跡として取扱う遺跡：旧石器時代～戦国16世紀まで
 - ◇近世遺跡：地域にとって必要な遺跡は調査対象に出来る
 - ◇(明治以降の)近代遺跡：地域にとって重要な遺跡が調査対象に出来る
- ・全国の遺跡地図には近代遺跡は入っているが、戦争遺跡はほとんどの自治体で掲載されていない。
- ・近代遺跡は、その自治体で重要な遺跡と認められれば調査対象となるが、行政的な扱いはばらばら。
- ・2013.6 横浜市教育委員会は、「横浜市の近代遺跡保護要綱(H21.12)に基づき「日吉台地下壕、野島地下壕、奈良地下壕」を新たな「周知の埋蔵文化財包蔵地」に、「開発規制対象」として扱うこととした。
- ・高知県南国市の事例：文化財保護行政担当者の判断で、「向山陣地壕」や「高知海軍航空隊通信所跡」は「周知の遺跡」として扱われ、発掘調査や保護行政が行われている。
- ・沖縄県立埋蔵文化財センターの事例：
 - ◇県内戦争遺跡の詳細調査を2010年から5年間実施し、1,076件を確認し、測量図・写真が収録された報告書が発行された。
 - ◇調査にあたった委員会意見：「戦争遺跡は原則的に埋蔵文化財として扱い、工事が及ぶ場合、写真・実測図作成行い、文化財保護法に沿って、協力要請すべき」事を確認。
- ・沖縄県での戦争遺跡発掘調査：1985年以来31件実施し、指定文化財は19件を数え(沖縄県陸軍病院南風原壕など)、平和学習の場として保存活用されている(行政の先進的な取組み)
- ・戦後70年に戦争の記憶を語り継ぐ課題
 - ◇館山市はじめ各地の戦跡団体や教育委員会などにより、戦争遺跡の見学会・学習会・平和のための戦争展、戦争体験を聞く会、シンポジウム、保存陳情、署名運動などが行われている。戦争遺跡の学際的な調査研究と保存公開運動の両面から、近代遺跡・近代化遺産・建造物の文化財指定や登録有形文化財・登録記念物をさらに促進してゆく必要がある

戦跡全国ネット運営委員会
共同代表 十菱駿武氏

全大会報告（9月6日／日）

第1分科会レポート：「保存活動における行政との関わりについて」

日吉台地下壕保存の会 佐藤宗達、小山信雄

◇活動方針のひとつである「慶應義塾・横浜市・神奈川県・国への働き掛けを、港北区民をはじめとする地域住民と協力して行う」の平成26年度の具体的活動内容について。

1. 横浜市港北区が行う「地域のチカラ応援事業（チャレンジコース）」への参加

・「地域のチカラ応援事業」について

＊港北区は地域の課題解決や地域住民のために自主的・主体的に行う団体を応援

＊平成26年度から「※チャレンジコース」に参加（24団体）

＊日吉台地下壕保存の会は「文化芸術：文化・芸術活動を通じ地域作りに貢献する取組」として申請し、事業名は「日吉台地下壕見学会のガイド養成（人材教育）」。
2015.4.25 平成27年度公開提案会に参加（港北区役所にて11団体が発表）

⇒懇話会委員の方々からの御意見

★戦争の悲惨さが風化されつつある中で、重要な取り組みであると思います。
若い人に興味を持ってもらえるように頑張って、歴史を正しく伝えて下さい。

★体験者からの聞き取り証言は内部資料にせず公開すべき

★各種資料を纏めては

2. 横浜市港北図書館との共催による「パネル展示会&講演会」の開催

・2014年3月の港北図書館リニューアル時に“港北まちの情報コーナー”が新設されたことを契機に「パネル展示会&講演会」を企画し、2014年12月の1ヵ月間実施。戦争に関する展示は今迄ほとんどありませんでした。

・昨年の展示会には多くの方々に見えていただけた、観覧人数は図書館でも今迄で最多との報告。講演会には多数ご参加頂き、「高齢者の参加が圧倒的に多い図書館の事業の中で、今回の参加者の35%が現役世代（～50歳代）は珍しいこと」との図書館コメント頂く。

3. 神奈川県立歴史博物館での企画展「陸にあがった海軍」（2015.1.31～3.22）

・6部構成の展示（日吉に海軍がやってくる／日吉にきた海軍とその施設／日吉と特別攻撃隊／日吉と戦艦大和の最後／本土空襲、そして終戦へ／海軍生活）

・「今回の特別展だけで博物館1年分の来館者を集めた」と言われたほど好評だった。

・関連行事としての地下壕見学会（2日間、定員120名）には1,500名の参加申し込みがあり、見学できなかった方の参加も含め、定例見学会は今年10月まで定員充足の状況。

4. 港北区日吉地区センター主催の学習会と見学会

・座学と見学会を2日間で実施。毎年（今年で5年目）、定員40名を超える応募がある。

5. 26年度の活動を通じての成果、感想、27年度への展望など

地下壕等の日吉の戦争遺跡を幅広く知ってもらうため、会報の日吉地区町内会役員への配布、港北区日吉地区センター主催の学習会と見学会の開催などにより、港北区役所では職員研修の一環として定期的に見学会に参加頂いています。さまざまな行事を通じ、地下壕への関心の高さや文化財としての意義の周知がある程度進んでいると感じられます。これからも引き続き、地域住民・行政と協力して「保存活動」の邁進に努めて行きます。



日吉台地下壕保存の会 小山信雄 佐藤宗達

第1分科会「保存活動の現状と課題」報告

運営委員 小山信雄

第1分科会では以下8本（日吉台地下壕保存の会の報告はP5）の報告が行われました。

1. 戦時期に築造された「地下工場等」を「世界遺産」に！

亀島山地下壕を語りつぐ会 上羽 修氏

◇亀島山地下工場の保存・公開運動（軽視されがちな文化財的価値を高めるために）

- ・ 亀島山地下工場：1941年、倉敷市水島に三菱重工水島航空機製作所が誘致、建設され、44年末頃から疎開地下・半地下工場が急造され、亀島山地下工場はその一つ。
- ・ 基礎的な遺構調査はほぼ終えたが、未だ保存・公開の目処が立っていない。倉敷市の2関係部署（総務課、都市計画課）が「そのままの状態での保存することについては一定の限界あり」として「DVDによる記録保存」の方向を鮮明にし、文化財保護課は蚊帳の外状態。
- ・ 2012年に「亀島山地下工場を保存する会」を立ち上げ、部分公開の実績積上げを図り、昨年の第18回全国シンポで公表・発表。
- ・ 今回のシンポで、「疎開地下工場などの広い作業面積を必要とする防空地下施設」に共通する構造の再確認を行い、「世界遺産」の視点で運動行う意義について触れる。

◇「広い作業面積を必要とする防空地下壕施設」に共通する特徴

- ・ 現在明確な平面図が存在し、崩落箇所の比較的少ない施設として※3箇所、及び松代大本営象山地下壕を取り上げる。※亀島山、戸狩山（岐阜県瑞浪市、川崎飛行機岐阜工場）、浅川イ地区（東京都八王子市、中島飛行機武蔵製作所）
- ・ 共通する特徴：基盤目配置、多数の小断面トンネル（急造の必要性）、名目は「倉庫」でも「広い作業面積を必要とする防空地下施設」として流用可。

◇「地下工場等」を「世界遺産」に、という意義

- ・ 全国的な視点を提供：全国の「地下工場等」を統一した項目で調査比較することで、共通点や特異点の確認ができ、個々の戦跡の重要性が明確化し、共通点の多い「地下工場等」を纏めて「世界遺産」にする為の大きな励みとなる。
- ・ 世界的な視点を提供：
 - ① WW1後の航空機の飛躍的発達により、世界的に空襲の危険性が高まり、工業力ある国々は大規模な「地下工場等」を建設。独ノルトハウゼンのロケット製造地下工場（ミッテルバウ＝ドーラ強制収容所）は、貨物列車が通る長大な2本の貫通トンネルと、それを繋ぐ250mの複数の連絡トンネルがあった。
 - ② WW2末期に乱造された防空地下施設（特に大規模な地下工場等）は、「総力戦の破綻・終末」という世界史上の重要な段階を物語る構造物。そこに投入された膨大な労力と人命と物が、如何に意味なく消費されたかを如実に表す戦争遺跡。後世に受け継ぐべき遺産である。

2. 日本最大級「野島掩体壕」を市指定文化財に 貝山地下壕保存する会 大黒春江氏

- ・ 野島掩体壕：横須賀市夏島町にあった旧横須賀海軍航空隊基地の戦闘機を空襲から守る施設として建設された。出入り口部分は、幅約20m、高さ約7m、長さ約260m。1945年3月～6月迄、横須賀海軍第300設営隊により建設。小型機100機格納予定だった。
- ・ 2010年に漸く、掩体壕西側の入口に「説明板」が設置され、2014年には東側にも設置された。また、公園案内パンフレットに掩体壕を書き入れて貰う事にもなったものの、公園管理事務所長が変わったら、「掩体壕を示す点線」が削除され、再度申し入れ。
- ・ 署名運動開始と金沢区・横浜市への要請行動：500筆近くの署名を、市教委文化財課へ提出し要請趣旨伝え、「前向きに取り組む」との回答得たが、手が回らないとの返答。
- ・ 要請項目：野島掩体壕の学術調査（どういう飛行機格納計画だったのか。整備工場？野島～横須賀軍港を繋ぐ通路？）、市指定遺跡（野島貝塚、伊藤博文邸等）含め、野島歴史公園の一面への位置付け、金網等設置による掩体壕内部の可視化など。

3. 松代大本営象山地下壕の説明板修正に対する取り組み

NPO法人松代大本営平和記念館 北原高子

- ・ 先ず初めに、1986年発足の「松代大本営の保存をすすめる会」は、2015年3月組織統合し、「NPO法人 松代大本営平和記念館」と名称変更されたことが報告されました。
- ・ 象山地下壕：1944年11月から、本土決戦準備と国体護持のため大本営を設置すべく、「松代倉庫工事」と称して長野市松代町を中心に、善光寺平一帯に十数か所の地下壕が掘り進められた。1990年、その中の「イ号倉庫象山地下壕（5,854m）」の一部500m区間が公開され、以来毎年10万人ほどの見学者が訪れている。
- ・ 2013年8月の説明板への白いガムテープ：説明板の一部「当時の住民及び朝鮮人の人々が労働者として強制的に動員され・・・」の「強制的に」の部分に白いテープが貼られた。観光課に問い正すと「必ずしも強制的でなかった」等市民の声が寄せられたからの返答。
- ・ 2014年8月、様々な意見・抗議に応じ、ガムテープを貼ったままの説明板に、更に張紙をし、「全員が強制的でなかった等見解あるので内容を再検討している」旨の釈明文を貼った。
- ・ 2014年11月、最終的に長野市は新たな説明板（★）を設置。「以前の文章内容は残念ながら後退してしまったが、強制的の文字が辛うじて生き残り、説明板後半には「貴重な戦争遺跡」という文が加えられたことで前進の部分もあった。保存・活用に前向きに取り組んでいる長野市とは正しい歴史認識、労働実態について相互理解目指し根気強く話合っている。

★・・・また、労働者として多くの朝鮮や日本の人々が強制的に動員されたと言われています。
 なお、このことについては、当時の関係資料が残されていないこともあり、必ずしも全てが強制的ではなかったなど、さまざまな見解があります。松代象山地下壕は、平和な世界を後世に語り継ぐ上での貴重な戦争遺跡として、多くの方々にこの存在を知っていただくため、平成元年から一部を公開しています。

4. テニアン・サイパン・グアムの戦争遺跡 戦争遺跡に平和を学ぶ京都の会 奥村英継

- ・ 写真紹介を中心に、2014年8.19～8.23の「テニアン・サイパン・グアムの戦跡遺跡ツアー」報告があった。「海外侵略の足跡を辿る」という趣旨の下、3年前からツアー開始。
- ・ 海外関係は右寄りサイトが多い中、対抗するサイトを立ち上げたいという思いがある。

5. 君津地域の戦跡と地域の戦中・戦後 千葉県歴史教育者協議会 栗原克栄

- ・ 君津地区（旧君津郡）は、千葉県の東京湾沿岸部の中程に位置し、現在の袖ヶ浦・木更津・君津・富津の4市を含む。この地域は東京湾の入口に位置することで、古くから交通の要地とされ、また軍事拠点とされた。近代に入ると富津に砲台が築かれ、アジア・太平洋戦争期には、木更津に海軍航空隊が開隊し、その附属施設として第二海軍航空廠等が置かれた。こうした戦争遺跡は、戦後の湾岸開発の中で次第に破壊され、残存するものは少ない。

6. 筑波海軍航空隊記念館

筑波海軍航空隊記念館館長 金澤大介

- ・ 筑波海軍航空隊記念館館長（金澤氏）、筑波大生（杉山さん）、常磐大生（男子）で発表。
- ・ 記念館館長より：今年1月より、県内（茨城県）の複数の学校と協働で「語り継ぐ記憶実行委員会」を設置し、語り継ぐ様々な活動を実施。企画展、演劇、朗読、紙芝居、講演など「戦争を体験していない学生」が様々な企画を立ち上げ、当館にて開催中。



赤山地下壕跡（館山市指定文化財）
地層のずれを観察出来ます

- ・大学生の発表(筑波大・女子): 戦争体験者に直接聴き取りを行い、プロモーションビデオ制作に取り掛かっている。最初は「こんなこと聞いたら申し訳ない」という気持ちから、遠慮ばかりしていたが、多くの体験者から「私達には残された時間が少ないので、あせりを感じている」と聞いてからは、積極的に聴きだすという態度に変わっていった。
- ・大学生の発表(常磐大・男子): 戦争について、学生達が海外にも発信してゆくべきと考える(英語で)。「戦争について、正しい理解がされていない。間違ったことを教えられている」という感触を持っている。海外の遺構関係者とも協力してゆきたい。

7. 旧横浜海軍航空隊と飛行艇 貝山地下壕保存する会 代表 原田弓子

現在の京急能見台駅の周辺は、「大日本兵器株式会社」や「富岡兵器製作所」など多くの兵器製作工場が集中しており、飛行艇関係の受注工場であったことが紹介された。現在は住宅地となっている。また、旧横浜海軍航空隊(飛行艇)の唯一残っている戦争遺跡が、現在の神奈川県警機動隊の倉庫となっており、飛行艇の説明板が設置されていることなどが紹介された。

第2分科会「調査の方法と整備技術」報告

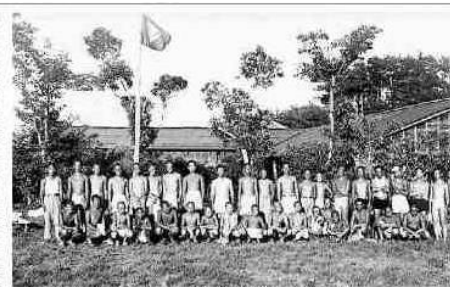
運営委員 佐藤 宗達

第2分科会は「調査の方法と整備技術」をテーマに5件の報告がありました。

- ① 愛知県の「御真影奉安殿」(戦争遺跡研究会・清水氏発表) では年別建設数が示され、昭和3年のピークは昭和天皇の御大典記念を契機とし、昭和8年以降は昭和15年の皇紀2600年記念事業として増加したものと考えられるとのことである。また質疑応答では外地の実例調査の質問があり、外地にもあった旨回答があった。
- ② 「戦争遺跡詳細確認調査報告書[沖縄県の戦争遺跡]の概要について」沖縄県立埋蔵文化財センター・瀬戸氏より報告があった。
- ③ 「長崎市神浦の海軍レーダー遺構」(空襲戦災を記録する全国連絡会議・工藤氏発表) では米国の戦略爆撃調査団の写真から長崎にあったレーダー(海軍用語で電探)遺構を割り出し、現地調査をした様子が報告された。Kamanoura と表記されているが写真と3D表示によるシュミレーションから神浦(こうのうら)をつきとめた。受信機の遺構はすぐにわかったが送信機の遺構は樹が生い茂り、地元の有志による調査が続けられているとのことである。

また質疑応答では日吉にもありましたかと質問があり、発信できる場所ではなかったの、レーダーはなかったと回答しておりました。

- ④ 「宿毛海軍航空隊・宿毛基地跡」(戦争遺跡保存ネットワーク高知・吉成氏発表) では震洋・回天の基地となっていた地下壕が国土交通省の特殊地下壕対策で埋められる事



海軍に譲渡された青山学院水泳部合宿所＝1941年以前の夏合宿、青山学院資料センター提供

赤山地下壕着工 日米開戦の前か

特別分科会では、青山学院高等部教諭の佐藤隆一さんと、敗戦直後の米軍の軍政を主導した元市教育長の高橋博夫さんが、報告した。佐藤さんは9年後の開学150年に向けた学院史の編集委員。戦前館山にあった水泳部合宿所について、青山学院院長の息子から先月新たに入手した史料「買収交渉の顛末」を紹介した。

青学は木造平屋建ての合宿所を26年に建設した。場所は赤山の海岸寄りだ。4年後にはさらに海側に館山海軍航空隊(現・海上自衛隊第21航空群)ができた。史料によると、41年9月に海軍省から「右土地は海軍にて急遽施設を必要とする旨」と告げられ、買収に応じたという。佐藤さんは「赤山壕の建設が進み、海軍は民間の合宿所が目の前では都合悪いと判断したのでないか」と語る。

また、同隊と赤山の間に家がある高橋さんは「地下壕を掘った残土を館山港に捨てる工事は39年ごろ始まったのではないか」と話した。

館山市居城の赤山(標高約60m)にある。旧館山海軍航空隊の南側に位置し、総延長は約2.5km。コンクリートぶきや素掘りの通路の奥に戦闘指揮所、発着所、野戦病院、軍安殿などの地下司令部があったとされる。2005年に市史跡に指定。NPO法人安房文化遺産フォーラムが個人と小グループ向けに毎月、無料で壕内を案内している。

赤山地下壕跡

館山市居城の赤山(標高約60m)にある。旧館山海軍航空隊の南側に位置し、総延長は約2.5km。コンクリートぶきや素掘りの通路の奥に戦闘指揮所、発着所、野戦病院、軍安殿などの地下司令部があったとされる。2005年に市史跡に指定。NPO法人安房文化遺産フォーラムが個人と小グループ向けに毎月、無料で壕内を案内している。

「当時、トロッコが家の前の県道を越えて行き来し、工事で約10軒が移転を強いられた」と証言した。同地下壕を記録した史料は乏しく、市のホームページでは、建設に携わった元兵士らの証言などから「1944(昭和19)年以降に建設工事が開始された」と記述している。

安房文化遺産フォーラムの愛沢伸雄代表は「米軍は赤山の正体が分からず神経質になっていた」との証言もある。地下壕の説明板を書きかえる必要があると思う」とまとめた。(田中洋一)

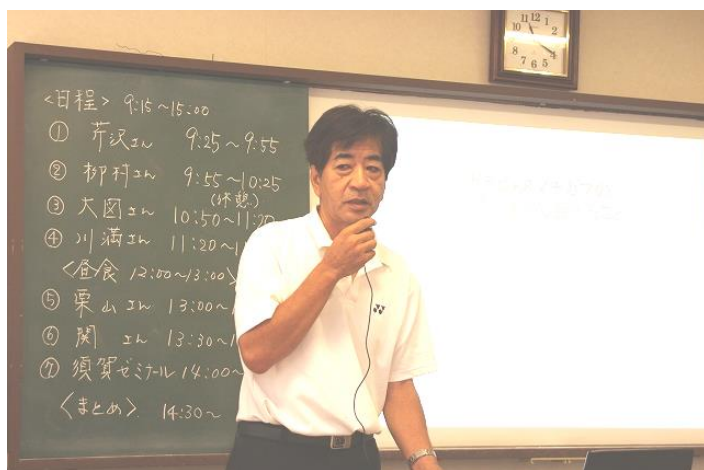
から測量調査の報告があった。調査後一部は埋められたが、残された遺跡の保存・活用を進めているとのことである。

- ⑤ 「山梨県上野原市西原の監視遺構の遺物の考古学的分析」について福島大・清水大学院生より報告がなされた。

第3分科会「平和博物館と次世代への継承」報告

運営委員 石橋星志

平和博物館と次世代への継承は、延べ50名の参加で行われた。報告は7本と豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会の夏目勝弘さんから平和公園の整備に関する文書報告が1件あった。報告順に、芹沢昇雄(NPO 中帰連平和記念館)「『中帰連平和記念館』の運営と近況について」、柳村篤史(山梨県戦争遺跡ネットワーク)「幻の奉安殿」、大図建吾(登戸研究所保存の会)「今を新たな『戦前』としないために、歴史の真実を求める市民とともに」、川満昭広(沖縄平和ネットワーク)「ガラビ・ヌヌマチガマの整備事業から見えること」、昼食休憩を挟んで、栗山究(NPO 法人安房文化遺産フォーラム)「“平和のための博物館”の現在を考える」、関和美(NPO 法人安房文化遺産フォーラム)「『館山まると博物館』～戦跡と教育・文化～」、須賀ゼミ(東洋大学国際地域学部国際観光学科)「戦争遺跡を活用した観光政策の現状とその課題～千葉県館山市・京都府舞鶴市を事例として～」である。



「ガラビ・ヌヌマチガマの整備事業から見えること」
沖縄平和ネットワーク 川満昭広氏

奉安殿調査は、第2分科会でも報告があり、同一の分科会で行われた方が良かった様に思った。午後の3報告は開催地からのもので、あれだけの大会を行いながら並行して報告するのは大変であり、やや報告の濃度も薄かった。

午前で印象的だったのは、川満報告で、ガマを地方自治体が整備する際に、平和教育への利用が背景化し、指定管理者が「平和ガイド」(これがマスコミの通称をとりあえず否定せずに使っていることを、恥ずかしながら初めて知りましたが)を管理のために閉め出すような動きを見せていることについての報告でした。単に保存に向かうこと、自治体が取り組むこ

とだけでは楽観できないこと、注意を欠かさないことが重要なことを改めて指摘された。地方自治体との付かず離れずの距離感は難しいが、それしかないとの思いも改めて持ちました。

一番問題を感じたのが、東洋大学の観光学の須賀ゼミ1年生の報告だった。彼らは、運営面でも大会を支えてくれ、その貢献は大きかった。ただし、報告は欧米の「ダークツーリズム」を日本でも主流の観光となるとの予想の元に、館山の戦跡について、先進事例とする舞鶴の引き揚げを調査した上、観光活用を積極的に推進すべきとする。物見遊山のような観光でも、現場に立つことに意義はあるのだから、多くの見学者があるべきとの指導教員の補足もあった。

私も含め、この報告を中心に議論になった。まず、報告中のアンケートがあまりに簡易で、調査意図を確認するには不十分なものであること、観光化には市民、民間、行政の三者の協力が必要と指摘の上で、主体が市民であるとされたこと、教育要素が強まると関心が下がるとされたことが主である。

そもそも、ただの観光化は、「ダークツーリズム」でもなんでもない、ただの珍しいものだけ見る物見遊山である。むしろ、惜しくも亡くなられた南守夫さんが指摘していたように、戦跡観光では、戦争を肯定する観光にもなりかねない危険を内在している。すでに、軍港等では、海軍の栄光に即した観光が積極的に行われ、舞鶴も引き揚げだけでなく、鎮守府観光

への動きを見せている。また、私の感覚でも近年の戦争展示や戦争遺跡の見学者は、年齢に関係なく、平和への意識が十分でなく、知識も曖昧で、ガイドの話も聞かずに自分の認識をただ追認してもらったと勘違いしている人の割合が増えている。これが戦争から離れていく現実だと思っているが、まじめでない見学者に、感覚だ、認識だというのは限界があると思われる。欧米の「ダークツーリズム」では、観光の中で考えることが主眼のスタディーツアーの要素が大事にされているが、日本ではその定義も曖昧なまま、言葉だけ取り入れる危うさを感じた。今更「若者に平和教育は定着していない」などとしたり顔で言われても、(もちろん、結論が決まったようなそれはもはや時代遅れだが、平和教育が有効性を失ったわけではない)現場で活動している人間の集まりでは、失笑ものだった。

総会でも発言したのだが、平和博物館に関する動向に、戦跡ネットも必ずしも関心を払っていない。松代は平和祈念館を作る方向へ舵を切ったはずだが、報告はなかった。本来的にはもっと第3分科会に重点が置かれるべきだと思っている。その軽視と観光化の報告は通底している。

無理に現地に報告を強要するよりも、議論の時間を多く取るという決断が必要だっただろうし、議論のまとめ役も固定していただきたかった。以前から、大学のゼミ報告がなぜか集まる分科会だが、その質は今回も高くなかったことは残念だった。

報告

報道関係者向け特別公開について

会長 阿久沢 武史

6月23日(火)、慶應義塾による地下壕の特別公開が行われました。これに先立って「日吉地下壕(旧連合艦隊司令部跡施設)の報道関係者向け特別公開について」というタイトルで、プレスリリースがありました。それによれば、

- ・8月の終戦記念日に向けて、毎年取材希望が多数寄せられてきたが、安全面等で十分な対応ができないことから、個別取材(特にムービーによる撮影)は断ってきた。一般の希望見学についても原則非公開としてきた。
- ・戦後70年にあたる今年は、戦争を語り継ぐことの重要性に鑑み、6月23日、7月14日の両日に、広く報道関係者向けに特別公開を実施することにした。
- ・今後も個別取材の希望は受けないので、ぜひこの機会に取材してほしい。という内容のものです。公開日は6月と7月に計2回、それぞれ午前午後の1日2回(9:30~11:10はテレビ局関連、13:00~14:40は新聞社・通信社関連)とし、所要時間は約1時間40分。準備段階で保存の会に協力の要請があり、義塾広報室との数度の打ち合わせの後、私がガイドを担当することになりました。



慶應義塾による地下壕の特別公開が行われました。これに先立って「日吉地下壕(旧連合艦隊司令部跡施設)の報道関係者向け特別公開について」というタイトルで、プレスリリースがありました。それによれば、

ルート16をゆく
戦跡・歴史・文化の宝庫

「戦後70年にあたる今年は、戦争を語り継ぐことの重要性に鑑み、6月23日、7月14日の両日に、広く報道関係者向けに特別公開を実施することにした。」

記憶をつなぐ遺構群

戦争体験者に話を聞く東海大の学生ら—伊勢駅前

次世代へ

「戦後70年にあたる今年は、戦争を語り継ぐことの重要性に鑑み、6月23日、7月14日の両日に、広く報道関係者向けに特別公開を実施することにした。」

「戦後70年にあたる今年は、戦争を語り継ぐことの重要性に鑑み、6月23日、7月14日の両日に、広く報道関係者向けに特別公開を実施することにした。」

下記の通り大手マスコミ各社から多数の取材申し込みがあり、日吉台地下壕に対する関心の高さがうかがわれました。結果的に2日の日程を1日に集約し、6月23日のみの公開となりました。

午前の部：NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビジョン、テレビ朝日、

イッツコミュニケーションズ、時事通信社、共同通信社、AP 通信社

午後の部：NHK、日本経済新聞社、朝日新聞社、朝日学生新聞社、産経新聞社、

毎日新聞社、読売新聞社、神奈川新聞社、東京新聞、時事通信社、AP 通信社

当日は、来往舎シンポジウムスペースで義塾広報室による特別公開の趣旨の説明、続いて日吉キャンパスの歴史と地下壕に関して私が概略を解説し、第一校舎の外観を見学した後、壕内に入りました。通常の見学会と同じ内容で各ポイントをガイドし、最後に作戦室で保存の必要性や教育での活用の意義について日頃の思いを語りました。その様子はインターネット上で動画配信されています（「時事ドットコム」）。

テレビ局各社の反応は早く、当日午後から夜にかけてニュース番組で報道され、新聞紙上でも翌日の朝刊・夕刊で取り上げられました。特筆すべきは、国内のみならず国外にも広く配信されたことです。新聞各社の報道は公開日直後にとどまらず、戦後70年の特集記事として繰り返し取り上げられました。特に7月2日（木）の朝日新聞朝刊神奈川版、同17日（金）の読売新聞夕刊の記事は、ほぼ紙面全体にわたる大きさで、終戦記念日の8月15日（土）の産経新聞神奈川版では慶應高校における見学会の取り組みも紹介されました。

さて、今回のマスコミ特別公開は、私たちの活動にとってどのような意味を持つでしょうか。まず日吉台地下壕の存在が広く社会に（国外も含め）知られることになったということがあげられます。もちろんこれまでもさまざまな形でマスコミに取り上げられてきましたが、義塾が積極的に（主体的に）関与した意味は大きいと思います。公開はあくまでも限定的なものではありますが、プレスリリースの「戦争を語り継ぐことの重要性に鑑み」という表現に、地下壕に対する義塾の前向きな姿勢が示されています。社会に開かれた学塾として、どのように公開し、どのように教育の場に活かしていくのか、義塾の責任と課題はこの言葉に集約されていると思います。

そして何より重要なのは、今回の報道が地下壕の保存活動と史跡指定に向けて追い風になるに違いないということです。日吉台地下壕に続いて、8月1日には宮内庁によって皇居内の御文庫付属室（昭和天皇が終戦の「聖断」を下した地下防空壕）が公開され、同10日には防衛省によって大本営陸軍部の地下壕が公開されました。これら一連の動きの中で、日吉台地下壕の歴史的価値への評価もいよいよ重さを増しました。日本の近現代史の遺産として、将来に向けて維持管理していくことの重要性を、いまや疑う余地はありません。今回の公開を、現在もなお進行中の宅地開発と破壊の動きに歯止めをかける力にしつつ、宿願である史跡指定の実現に向けて、今後も地道な活動を続けていく必要があると思います。

戦争体験者の聞き取り

航空本部地下壕で勤務した女性理事生のお話 《連載第1回》

福井（旧姓杉浦）寿美子さん、中川（旧姓梶）雪子さん

2013年11月30日聞き取り 聞き手：山田譲、都倉、山田淑子、長谷川、亀岡

山田譲 日吉台地下壕保存の会でいろいろガイドをやっていますが、その中身を豊富化したいということで、お話を聞かせていただきたいと思います。聞き取りなので、形式的なことからお聞きしたいんですが、まず福井寿美子さんのほうから、生年月日から教えていただけますか？

福井 大正15年8月27日。学歴は、昔で言うと高等女学校。でも不思議なんです。昔は高

等女学校ったら5年制でしたでしょ？ですけど4年でもって繰り上げていうんですか？4年で卒業することになった。5年制だったのに、急に卒業することになりまして、4年で卒業しましたから。18年3月に卒業しました。

山田 譲 次は中川雪子さんのほうで、生年月日をすいません。

中川 昭和2年11月10日です。出身校は本所の実践女学校で4年生で卒業です。卒業したのが19年ですけど、実際に勉強したのは12月までで1月から海軍。で、3月に最後の試験を受けに行きました。それで一応学校は卒業ということになっています。

【福井さんの航空本部勤務】

山田 譲 次に航空本部の勤務のことでお聞きしたいんですけど。

福井 航空本部は18年の4月に就職です。それから20年の終戦の月、8月の末までです。

山田 譲 所属が航空本部第2部第1課ということですね。

福井 図書係。図書と人事係でした。図書というのは、飛行機の取扱説明書の本がいっぱいありました。ですからそのときに覚えたのが、きりもみ実験だとか、体感飛行だとか、三沢辺りでやったらいいんですけど、そういうものの本がいっぱいありました。それらの説明書を航空隊の人々が時々借りに来たり、また説明書を航空隊に送ったりというのも仕事の一つでした。図書室というほどの大きなものではありませんでしたけど、金属製の戸棚が一番多かったわね、立派なのが。書棚が二つぐらいかしら。三つはありませんでした。それは霞ヶ関5階にありました。元は5階に来る前には、日比谷公園の中に木造のバラックがありましたので、そこに居ましたから。だから18年19年ぐらいいはそのバラックのほうに居ました。日比谷公園の一番角の所に出口がありまして、その側にバラックの小屋があったんです。図書館に近いほうです。ここに2階建てのバラックができてまして、この角が軍令部総長の官舎になっていました。(注1——軍令部第3部にいた実松譲元大佐の『大海軍惜別記』では「日比谷公園の南西角、……貴族院議長官舎がたっていた。……それを軍令部総長官舎の名義で借り、会議などに使用していた。」と書かれている。)道を挟んだこっち側(西側)に海軍省があって、ここ(海軍省の隣)

が航空本部の5階です。

中川 5階です。私だからここはしょっちゅう行ったり来たりしてたのよ。

福井 それがその後、東京警備隊がここ(木造バラック)に入りまして、私たちがこっち(航空本部5階)へ移ったんです。

山田 譲 すると海軍省の空襲のときにはもうそちらにいらしたんでしょ？

福井 もうそっちでした。だから19年の終わりのころなのかな。ちょっとこのところは、はっきり覚えてないんですけど。

山田 譲 航空本部の第1部と第2部があって、第3部っていうのもあるんですか？

福井 第3部、第4部までありました。1部は何だか分からないんですけど、2部は機体関係。3部が発動機だったっていうのは覚えがあります。4部はなんだか分かりませんが。

山田 譲 はい。そうすると、それで人事係っていうのはどういうことをされた？



福井(旧姓:杉浦)寿美子さん 中川(旧姓:梶)雪子さん

福井 人事っていうのは、海軍の大將から始まってでしょうけど、下のほうの少尉までは覚えはないんですけど、大佐ぐらいまでの人の勤務先、誰それは今連合艦隊、誰それは今大臣っていうのを・・・勤務地ってことでしょうか。誰が何々の船に乗ってる、艦長だとかって名前はよく書きました。で、変わるたびにそれを訂正していくのは・・・。

山田 謙 それはしょっちゅう変わるでしょうね。戦死するし。

福井 そうですね。そういうのは随分書いてました。何冊もありました。しかし戦死と書いたことはありません。それと、2部の中の人的人事も一応やってました。

山田 謙 そうすると、そういうお仕事はずっと変わらないわけですか？

福井 変わりませんでした。

山田 謙 日吉にもその書棚っていうのは来たわけですね？

福井 それが来られないんで、とうとう最後まで日比谷にあったんです。だと思います。

【日吉での勤務】

山田 謙 日吉に来られたのはいつごろから？ 行ったり来たりはともかくとして。

福井 私は3月10日に焼けてからのほうが多いような気がしてるんですけど。大空襲の後。私も家が焼けたっていうことで、その後。その前どうしてたかしらっていうのは、特別覚えもないんだね。

山田 謙 他の人の聞き取りだと、5月25日に海軍省が焼けて、日吉に来たっていうふうに書いてあるんです。(注2——慶應生協ニュース68号、航空本部総務部1課・元理事生秋元智恵子さんの手記)これ(生協ニュースの記事)にはそう書いてあるんですけど、実際には結構さみだれで行ったりとかあり得るんで。だからいつごろから日吉と行き来されてたかなと。

福井 5月ね。なんでも私は3月10日に焼けて、一時ちょっと田舎に行きましたでしょ。行ってすぐに帰って来いって電報が来て、それで帰ってきてからじゃないかと思うんです。

山田 謙 戻ってこいっていう電報は日比谷に戻ってこいでしょ？

福井 そうです。海軍省へ戻ってこいというかね。でも、全員が戻ってきたわけじゃないようですけど、もちろん。怖いし、そのまますぐに疎開しちゃった人もたくさん居ましたから。

山田 謙 そうすると、日比谷の空襲があった後は、間違いなく行ったり来たりですね？

福井 しました。

山田 謙 そうすると、江戸川にお住まいでしたっけ？

福井 そのときは江戸川区です。(家が)焼けてからは江戸川区です。焼ける前はもちろん深川に居たんですから。そのときに住んでた仮住まいは、今なら西小岩になるのかしら。小岩の駅のすぐ北側ですけど。四畳半のアパートに居ました。父と二人で居ました。狭いですね。もうお勝手なんかは、半畳なかったわね。

【海軍省と日吉との定期便】

福井 通うときは、海軍省まで来て、そこから日吉に出る定期便があったんです。その定期便で通いました。日比谷で少し何かの仕事をして、またこっちへ来て仕事をするというような、随分不経済的なことやってました。行ったり来たりでした。その車が不思議に思い出せないんです。トラックだかバスだったのか、不思議ね。なんか思いだしそうなんだけど、思い出さない。

山田 謙 どこに止まるんですか？ その定期便は。

福井 それが駅降りてすぐの右側にある所らしいんです。日吉駅東口を出てすぐ右に校舎がありますよね、道路越して。バスが止まると一直線にこのゴールに飛びこむだけの道しかないんです。

山田 謙 普通は、第一校舎まで来ちゃうんじゃないかと思うんだけど。

福井 あれ第一校舎っていうんですか？

都倉 ずっと並木を上がって右側。道路に面した所には多分当時は建物ないんじゃないかと。

山田 譲 これは当時の校舎の迷彩ですけど。こんな迷彩の姿、記憶ありますか？

福井 いや、こういう校舎の形には覚えはないわね。ただ学生が居ないから静かねって、友達と話したのは覚えがあります。校舎があるところのすぐそばに車が止まっていた。車降りてからしばらくダダダダッと坂駆け下りるようにして下りてって、ちょっと上がりかけた所に入り口があったのは覚えがあるの。降りてただ真っすぐ行っちゃったような気がします。原っぱを抜けてというだけの覚えはあるんですけど。

山田 譲 原っぱを抜けて？ 階段を下りるんでしょ？

福井 それが、階段ではなかったように思います。だらだらと坂道……。

山田 譲 今といろんな違う道とか階段とか、当時あったみたいな話なんで、今どおりじゃないとは思いますが。そうすると、とにかく何か校舎の脇に止まった？

福井 脇になんか止まりました。

【中川さんの場合】

山田 譲 じゃ、中川さんのほうにいったん話を戻させてもらって。昭和19年の1月から……。

中川 はい、1月からってということで、3学期は勉強しないで、海軍航空本部に4年生3人で来ました。

山田 譲 それはいつまで？

中川 20年の9月1日付で海軍航空本部依願解雇。復員省でやってもらえないかって言われたんですが、家が焼けちゃってもうなかったの、そこで解雇してくださいということで。

山田 譲 そうすると所属は第2部の第2課ということで、やっぱりバラックに居たんですか？

中川 そうです。バラックから入りました。

山田 譲 バラックに居て、航空本部の、やっぱり5階ですか？

中川 そうです、はい。で、本所の堅川から通いましたんで、都電で日比谷で降りて歩いて日比谷公園の中を抜けて、バラックに通ってました。公園をずっとはすに通って。でも当時は本当にもうお花なんかなくて、自給自足のものが、麦畑でしたね。ほとんど植え替えてありました。

【中川さんの空襲被害と田園調布の修道院寮生活】

中川 私の場合は3月10日の前に2月25日に艦載機で、うちのほうの町会の一角が焼けたんです。油脂焼夷弾が落ちて、それこそ練習してた、火たたきや何かで、バカみたいに自分の家が燃えるのをこうやって、それでも結果的には焼けましたけど。それから、本所厩橋のおじの家に身を寄せさせてもらって、それで今度3月10日（の大空襲）に遭ったんです。

山田 譲 じゃ、本当に丸焼けですね。

中川 はい。それで、3月10日に焼けてから、結局田舎へかえたもので、やっぱり福井さんと同じで、電報で出てこいっていうのが来ましたよね、何回か。埼玉にいて、それでもまあ私の場合は3月10日の空襲後しばらく田舎にいて、風呂敷二つ持って田園調布の寮に入りました。

山田 譲 （地図の）ここにキリスト教系の双葉学園がありまして。

中川 ここの宿舎って、海軍が借りて私たちの宿舎にしてくれたの。ですから、脇には居ました、シスターさんが。舎監が居て、夜は少尉の人なんかたまたま泊まりに来たりして、ここで終戦まで居たんです。3月10日があってから電報が来て、それで私は3人きょうだいで兄が兵隊に行っていましたし、妹一人なので、田舎のおばに「あんたが東京行ってもしものことがあったらどうするんだ」って言われて、それこそけんか状態じゃないですけど、私はもう田舎に居るのは嫌なので、それで風呂敷二つ持って反対押し切って出てきちゃったんです。

山田 譲 田園調布も空襲を受けてるんですよね？

中川 ここに居ると毎晩本当に空襲があるわけです。大体11時半ごろには、もう定期的に来るんです。

山田譲 通り道なんです、ここ。

中川 そうなんです。それが終わらないと私たちは眠れないんで、「ああ、終わったから寝ましょう」と言ってみんな寝た。そんな生活を覚えてます。毎晩「定期便が来ないから、まだ駄目ね」って。

福井 私はあのときに、女子寮があるからって言われたんですけど、私は本当の田舎もなくて、疎開する先もなかったものですから、着替えもなくて、女子寮に入ることもできなかったんで通ったんです。本当の着の身着のままでしたから。

中川 本当そうですね。私なんかも・・・

福井 そのときには綱島温泉に寮借りてるからって話を誰からともなく聞いた覚えはあるんですけど。きっとあの辺の小さな旅館は海軍が借り切ったところがあったのかもしれないね。

【中川さんの航空本部勤務】

山田譲 ちょっと話戻すと、中川さんのほうで、第2課の仕事はどんな？

中川 私は入りましたときは、一番最初にしたのは持ち回りって言いまして軍極秘って赤い判が押された、いわゆる機密文書です。それを持ち回って早く部員（軍人のこと）さんたちに見せて回る・・・。

福井 （中川さんは）見せて判をもらって歩く仕事をしてたんです。

山田淑子 で、決裁を終わった文書はどちらに？

中川 書記かな。根本さんかな。根本書記っていうのが居たんですけど・・・。

福井 一つ上の役の人で書記っていう人がいたんです。図書の方の書記の人は、佐藤要さん。それから2部の庶務は古川さんです。2課の方には技術関係の人で、それが小暮技師。その下に小割技手。この人は確か呉の人だったみたいね。技師の下が技手（ぎて）。

中川 助手ですよ、技手はね。

福井 その下にまた普通の人何人か居たようですね。理事生の人ですね。

中川 一般的な技術屋さんという人が。・・・次号に続く・・・

福井寿美子さんの短歌 日吉にて

（平成19年10月2日）

☆海軍壕に励みし日あり老いて訪う 開かずの鉄扉あら草しげる
☆敗戦の玉音放送に涙せし 日吉学舎の裏山に佇つ
☆地下水は壁に湿りし海軍壕 励みし青春の欠片（かけら）なつかし
☆海軍壕の思い出語り度き友は 車椅子あり逝きしもありぬ
☆壕への道問えば学生知らざりき かの戦争も歴史の隅か

（平成25年9月28日）

☆海軍壕に励むもありしライト持ち
廻ればいくつ思い出はしる

（平成27年2月7日）

☆日吉海軍壕を語り継ぐべくパネリスト
二百余人の若きに戸惑う



ガイドされる福井寿美子さんと中川雪子さん

報告

元帝国海軍少佐神津氏の遺品

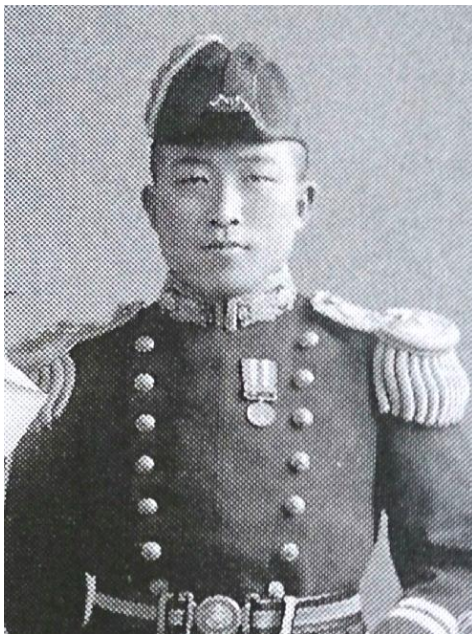
運営委員 岡本秀樹

今年4月、友人から先祖の遺品の扱いについての相談を受けました。大変保存状態も良いご遺品でしたので、慶應義塾福澤研究センターをご紹介しますことになりました。元帝国海軍神津少佐が、戦艦大和に乗艦された時期の「儀典用の帽子と肩章」です。戦艦大和には、大尉時代乗船。分隊長第三砲台長として参戦され、最後は昭和18年5月戦死された山本五十六大将の遺骨とともに帰還されたそうです。

化薬関係が専門で、終始弾薬関係の業務に精通され、終戦を呉にて迎えられますが、広島原爆投下時には海軍調査団として、いち早く現地に乗り込み調査をされています。

また、終戦時の混乱の中、残火薬の処理、進駐軍との船舶の引渡しなどの責任者を努められ、特に引渡前の機関整備、艦内清掃、特にピカピカに磨かれたトイレには、進駐軍側も驚いていたとご自身の回顧録で述べられています。

今回の寄贈に当たって、大和ミュージアムも検討されましたが、寄贈者は塾員であり、遺品は将来保存の会も目指す慶應義塾の戦争ミュージアムが完成の運びとなった折に、展示物として活用されれば幸いかと思います。



元帝国海軍 神津少佐



戦艦大和に乗艦時の儀礼用の帽子と肩章

お知らせ

毎年恒例の日吉と慶應の文化祭、年に一度のお祭り **日吉フェスタ** が下記の通り開催されます。日吉台地下壕保存の会は、今年も展示と書籍販売を行います。「**ぶらーり キャンパスウォーク**」も行いますので、是非保存の会テントにお立ち寄りください。今年は、日吉商店街にも繰り出すお神輿パレードも開催されます。

日時：10月3日(土) 12:00～16:00 (雨天時小規模開催、荒天中止)
キャンパスウォーク：13:00 と 14:00 の2回 (保存の会テント前集合)

報告

港北図書館でパネル展&講演会を開催 運営委員 佐藤宗達 小山信雄

8月1日～16日までの半月間、菊名にある横浜市港北図書館“港北まちの情報コーナー”で「日吉台地下壕」のパネル展を開催し、9日(日)には二階会議室にて講演会を行いました。昨年12月に続いて二度目の開催となりました。今回も港北図書館の絶大なご協力を頂き、事前の広範囲(近隣の各区図書館、地区センター、行政サービスコーナー、ケアプラザ、港北区役所、港北図書館内など)に亘るチラシの配布や、広報よこはま、楽・遊・学など広報誌への積極的な掲載により、昨年以上に多くの方に足を運んで頂き、地下壕への関心を得る事ができました。

今年は戦後70年という節目の年にあたり、TV・新聞などのマスコミ報道も“戦争”について大きく取り上げられていた影響もあってか、講演会では予想を大きく上回る75名もの方々にお越しいただき、図書館としても記録的な講演会の来場者になったとのこと。また、図書館の非利用者が多かったことが特徴的だったとの感想も頂きました。アンケートも



講演会の発表者(小山信雄 長谷川崇 佐藤宗達)
横浜市港北図書館 二階会議室 2015.8.9

「初めて知ることができ良かった」や厳しいコメントなど多数いただきましたが、「これから日本を支えて行く次世代の子ども達に伝えて行って欲しい」とのご意見を何件か頂き、とても大切なことと改めて認識しています。

1階の情報コーナーでのミニレクチャーは、8月2日と16日に行い、熱心にパネル見学されている皆様に対し随時説明会を行いました。これからも機会を作って図書館での活動継続に力を入れて行きます。



パネル展示会 港北図書館一階・港北まちの情報コーナー

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会会則の一部改正について

総会で提案され、可決承認され、次のように改められました。

2015年6月6日

提案 日吉台地下壕保存の会運営委員会

(説明) 現在使用している会の名称に変更するため、会則の一部を改正するものである。

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会会則の一部を改正する会則案

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会会則を次のように改める。

題名を次のように改める。

日吉台地下壕保存の会会則

第1条を次のように改める。

第1条(名称) この会は、「日吉台地下壕保存の会」という。

付 則 この会則は、2015年6月6日から施行する。

戦跡を巡るバスツアーの案内

日 時 2015年11月8日(日) 9:00-17:00(予定)

コース 日吉駅—海軍蟹ヶ谷通信隊跡—野川神社慰霊碑—戦災供養地蔵(梶ヶ谷)
—陸軍田奈弾薬庫跡(こどもの国)—海軍気象部(大倉山記念館)—日吉駅

集 合 8:45 慶應義塾日吉キャンパス守衛所前

参加費 4,500円(交通費・入場料・保険料など 当日集金します)

定 員 25名(先着順)

23回横浜・川崎平和のための戦争展のお知らせ

日 時 2015年12月5日(土)~6日(日) 両日 9:00-17:00

会 場 慶應義塾日吉 来往舎イベントテラス・シンポジウムスペース

テーマ 《日吉台地下壕・登戸研究所を国の登録文化財に》

内 容 展示(2日間) 各戦跡の写真・資料・実物展示

若者の発表(6日午前)

シンポジウム《1945年/2015年 戦争遺跡は語る》山田朗氏ほか(同午後)

☆要項は123号に掲載予定

2015年度大会「東南アジアにおける戦争遺跡の保存と活用」

(東南アジア考古学会研究発表会・大会) 場所: 昭和女子大学・本部館・3階大会議室

日程・プログラム

10月31日(土) 会員研究発表・総会

13:30~受付 14:00~16:30 会員研究発表

16:30~17:30 総会 17:30~19:30 懇親会

11月1日(日) 大会

9:30~受付

10:00~10:10 開催挨拶・趣旨説明 (菊池誠一・昭和女子大学教授)

10:10~10:50 知覧飛行場跡の調査(上田耕、坂元恒太、大山勇作・南九州市教育委員会)

11:00~11:30 習志野騎兵旅団創設期建物の調査(山岸良二・東邦大学附属東邦中高等学校教諭)

11:30~12:00 フィリピンにおける戦争遺跡の保存と活用(田中和彦・上智大学非常勤講師)

12:00~13:00 昼休み

13:00~14:00 講演「戦争遺跡の調査と保存」(菊池 実・ハルピン師範大学専任講師)

14:00~14:30 太平洋諸島に遺る戦争遺跡の調査(檜崎修一郎・厚生労働省社会援護局人類学専門員)

14:30~15:00 インドネシアにおける戦争遺跡の保存と活用(坂井 隆・国立台湾大学芸術史研究所
副教授)

15:00~15:20 休憩

15:20~15:50 ベトナムにおける戦争遺跡の保存と活用(阿部(菊池)百里子・人間文化研究機構
特任助教、菊池誠一)

15:50~16:20 カンボジアにおける戦争遺跡の保存と活用 (丸井雅子・上智大学教授)

16:30~17:20 総合討論

17:20~17:30 閉会挨拶

報告**乗り切りました 酷暑のガイド**

運営委員 石橋星志

今年は戦後70年ということもあり、また、年明けに行われた県立博物館の特別展の余波も続き、見学会の予約が埋まる状況がありました。このままだと、季節が良くなる秋口もすぐにいっぱいになると考え、夏休みに例年以上に見学会を計画しました。特に7月と8月で17回の見学会を行いました。

新たな試みとして、8月1日の午前の見学会では、暗号兵として勤務された栗原さんにご参加いただき、地下の暗号室の説明の中で証言をしていただきました。

例年8月10日頃までに集中的に見学会を開催していますが、今年は午前午後の、通称「ダブルヘッダー」が3日を設定し、真夏日が10日連続という中でしたが、メンバーをフル稼働させず、交互に休みを入れ、予定をやりくりして平日のガイドをするなどガイド全体で調整をして、見学者もガイドも無事に何とか乗り切ることができました。

ガイド養成講座後初めて参加された方もおられ、力が湧く思いでした。定例見学会は50～60名が通常になりつつあり、1人でも多くの方がガイドをしていただけると助かります。ついて行くだけでも良いのならという方、ぜひ今年度のガイド養成講座(来年1月開始予定)を受講して、一緒に歩きましょう。

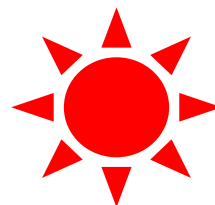


オリエンテーションは猛暑を避けて
来往舎会議室にて

★活動の記録 2015年7月～9月

- 7/6 地下壕見学会 日吉本町民生委員児童委員 15名
会報121号発送(来往舎205号室)
平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(神奈川県民センター)
- 7/9 地下壕見学会 立川九条の会 20名
- 7/14 運営委員会(来往舎205号室)
- 7/15 地下壕見学会 東京南部生協 15名
- 7/17 地下壕見学会 横須賀好古会 13名
- 7/22 慶應義塾高校地下壕見学会 10名
- 7/23 地下壕見学会 世田谷市民大学 33名
- 7/25 定例見学会 59名
- 7/26 ガイド学習会(菊名フラット)
- 7/31 パネル展「日吉台地下壕」設営(港北図書館)
- 8/1～16 パネル展「日吉台地下壕」(港北図書館)
- 8/1 夏休み地下壕見学会 午前・午後 94名
- 8/3 夏休み地下壕見学会 午前 70名
地下壕見学会 午後 港北区役所職員研修20名・滋賀県教職員組合9名
- 8/5 夏休み地下壕見学会 70名
- 8/7 地下壕見学会 上伊那歴史研究会26名 JA新田会 28名
- 8/9 講演会「日吉台地下壕」(港北図書館会議室) 参加者75名
- 8/11 地下壕見学会 港北見聞録の会 43名

8月は定例見学会の他、夏休み見学会を4回実施。小中高生、親子の参加が多数ありました。



8/17 地下壕見学会 4区合同小学校社会科研修会 (港北・緑・都筑・青葉)

55名 法政第二高校 5名

8/20 運営委員会 (来往舎 205号室)

8/22 定例見学会 60名

9/5~7 第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム千葉県館山大会 (千葉県南総文
ホール・館山市コミュニティセンター) 9/5 全大会・9/6 分科会・

9/7 フィールドワーク A 館山海軍航空隊痕等・B 大房岬要塞群等

9/11 地下壕見学会 桐蔭学園生徒会・先生 13名

予定 9/17 運営委員会 (来往舎 205号室)・10/3 日吉エイジ主催
日吉フェスタ 12時~16時 展示・書籍販売・キャンパスツアー2回 (日吉キャンパス)



7月定例見学会で体験を話される大角基夫さん

※大角さんは昭和19年1学期まで予科生として日吉に通学。昭和20年、海軍少尉として藤枝航空隊に。
ガイドが持っているのは、小泉信三塾長、永野修身大将の揮毫もある日章旗。

☆定例見学会 毎月第4土曜日 13時~15時30分 (原則)

12月19日(土)・1月23日(土)・2月29日(土)・3月26日(土)

(9月26日(土) 10月24日(土) 11月28日(土)は締切りました)

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで TEL045-562-0443 (喜田 午前・夜間)

連絡先 (会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町 2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 阿久沢武史

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会